

## 令和2年度 年始の全校集会

皆さん、おはようございます。年が改まりました。今年こそ、良い年にしたいものです。そんな気持ちは昔の人も同様で万葉集の代表的歌人である大伴家持は次のような新年を寿ぐ歌を作りました。

新しき 年の始の 初春の 今日ふる雪の いや重(し)  
け 吉事(よごと)

新年を寿ぐ代表的な歌であり、万葉集 4500 首の最後を飾る歌です。当時世相は不安定であり、大伴一族も不幸が重なり、彼自身も因幡の国に左遷されていました。そんな中で彼は先ほどの歌を歌ったのです。「いや重け吉事」の「重け」はあとからあとから絶える事なく続くこと。「吉事」とはよいことです。「新しい年のはじめの新春の今日降る雪が積もるように良いことが積もれよ」という意味です。当時、元旦に雪が降るのは瑞兆で、その年は豊作であるといわれていました。今年の幸せを願い、美しくおめでたい言葉を連ねた『萬葉集』の掉尾を飾る堂々たる名歌です。

「言事不二」という考えがあります。「言葉と事実とは一致する、言葉と事実は二つではなく一つである」「言葉に出したことは実現する」という意味です。家持が、「いや重け吉事」と歌ったのは、めでたい言葉を発することによって吉事が本当に事実として実現することを願ったのです。そして、『萬葉集』の最後の歌としてこれを収め、一大歌集の締めくくりにしました。国が混乱し、世の有様は悲痛であり慟哭すべきものであっても、また自分の一族が危機に瀕していても、いや、だからこそ、日本の国の安泰を祈る心の表白です。

今世界はコロナウイルスによって混乱と不安の極みにあります。言葉は人の心をつなぐ道具です。今こそ、美しく感動的な言葉で人の心をつなぐ必要があります。ドイツのメルケル首相のように言葉で人の不安を取り除き、安心を育む必要があります。

さて最後に今年こそ、千里生にとって、また世界の人々にとって吉事が重なることを願って、もう一度、家持の歌を歌って、新年のあいさつとします。

新しき 年の始の 初春の 今日ふる雪の いや重(し)  
け吉事(よごと)